

# 交運労協 FAX ニュース NO. 2

港区芝浦3-2-22 田町交通ビル3階 発行日 2018年11月2日  
TEL:03-3769-6571 FAX:03-3769-6570 発行人 高松 伸幸  
交運労協URL <http://www.koun-itf.jp>

## 【国際運輸労連 (ITF) 第 44 回世界大会開催】



## 交通運輸労働者の力の構築！

10月14日～20日、シンガポール・サンテックコンベンションセンターにおいて、約140ヶ国、600組合、2,000名以上が参加し、第44回世界大会が開催され、日本からは、11組織121名（交運労協非加盟2組織27名）が参加した。

大会に臨むにあたり、13日には日本加盟組織結団式をチェンシー・カーペンターレストランにおいて開催し連携を図った。



【ITF を代表して挨拶を行う パディ クラムリン】

大会は、過去4年間の活動の総括を行い、大会テーマ文書「交通運輸労働者の力の構築」に基づきITFのビジョン、自動化や技術革新などについての主要課題、戦略的方向性、優先課題が提案され全体会議ならびに産別部会で議論し今後5年間（2019年～2023年）の方向性、優先課題が確認された。

大会では二日目以降（15日～18日まで）、各産別部会総会、青年総会、女性総会が開催されそれぞれの戦略的方向性、優先課題を協議し、採択された。

19日に開催された全体会議において、ITFの戦略的方向性のひとつとして『グローバルならびに地域レベルの政策に影響を及ぼす』方向性について住野敏彦議長より、「第4次産業革命による正・負の影響を明らかにし、働く者の視点に立った「政策立案」への積極的関与の重要性と各国レベルでのきめ細やかな対応の必要」等について発言し、議案を採択した。



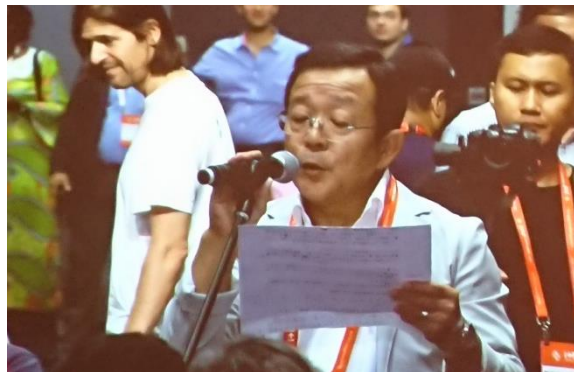
【方針について提案をおこなう住野議長】

「加盟費」に関し、全体会議（20日）で、交運労協を代表して、田野辺耕一私鉄総連委員長から「日本加盟組織は、財政的窮状に拘わらず、国際労働運動の維持・発展に協力・努力している。機構改革、財政支出の見直し等組織的努力は評価するものの、4大会連続した加盟費値上げに反対する」旨の

発言を行った。

しかし、慎重論議の結果、次年度（2019年）から0.05ポンドの引き上げにより、1.75ポンド／年・人とする組織提案を承認した。

その後、28件の動議（8件緊急動議含む）および規約改正の採択、ならびに永年功労表彰を行った。



【加盟費について発言をおこなう田野辺委員長】

会期中の執行委員会において、会長、副会長、書記長および執行委員ならびに運営委員等が選出され、会長（パディ・クラムリン）ならびに書記長（スティーヴ・コットン）を再選、日本からは住野敏彦議長を副会長（アジア太平洋代表）兼執行委員・運営委員ならびに森田副議長（海員組合・組合長）を執行委員・運営委員に選出された。

また、後藤副議長（サービス連合・会長）は観光サービス部会総会において部会議長を退任され、執行委員を辞任した。

水産部会の副議長に高橋雅幸氏（海員組合）、観光サービス部会の副議長に長縄将幸氏（サービス連合）、路面運輸部会のアジア太平洋地域副議長に杉山豊隆氏（運輸労連）が選出され大会が終了した。

また、今大会はアジア地域での開催であったため、大会期間中にアジア各国（シンガポール、韓国、フィリピン、日本）によるイベントが企画され、日本としても、15日にシンガポール日本人会会館において「ジャパン・ナイト」を開催し、世界各国から約300人が参加した。



開会に際し、住野議長の挨拶ののちに、各モード（8部門）の現状や課題を集約したビデオを放映し、シンガポール駐在の方で結成された「響屋」より日本のパフォーマンスとして太鼓や獅子舞などが披露され各国の出席者から喝采を浴びるなど、大会に華を添えた。

以上

※ビデオ作成にあたり、ご協力いただいた各構成組織に紙面を借りて感謝申し上げます。